

N K H

長岡市立科学博物館報

No. 63 1993



長岡東山・西山の鳥類相

N K H

はじめに

63号

1993年3月

長岡東山・西山の鳥類相(続)

渡辺 央

当館が長岡野鳥の会の協力を得て行っている「野鳥相を調べる会」は、1977年以来16年が経過した。この間、長岡の自然の要である東山、西山と、市内中央部を流れる信濃川の中から毎年調査地1か所を選び調査を行ってきた。1987年には当館報で、「東山・西山の鳥類相」として、東山地域3か所、西山地域2か所の調査結果を整理し、観察された71種の鳥類を報告した。

その後、調べる会ではさらに東山地域で3か所、西山地域で1か所の調査を終了し、1992年で両地域合わせて10か所の野鳥相を調べたことになる。そこで、今回は第一回目の百問堤の結果を除き、残る9地域について結果を整理し、東山と西山の野鳥相とその生息状況をまとめた。

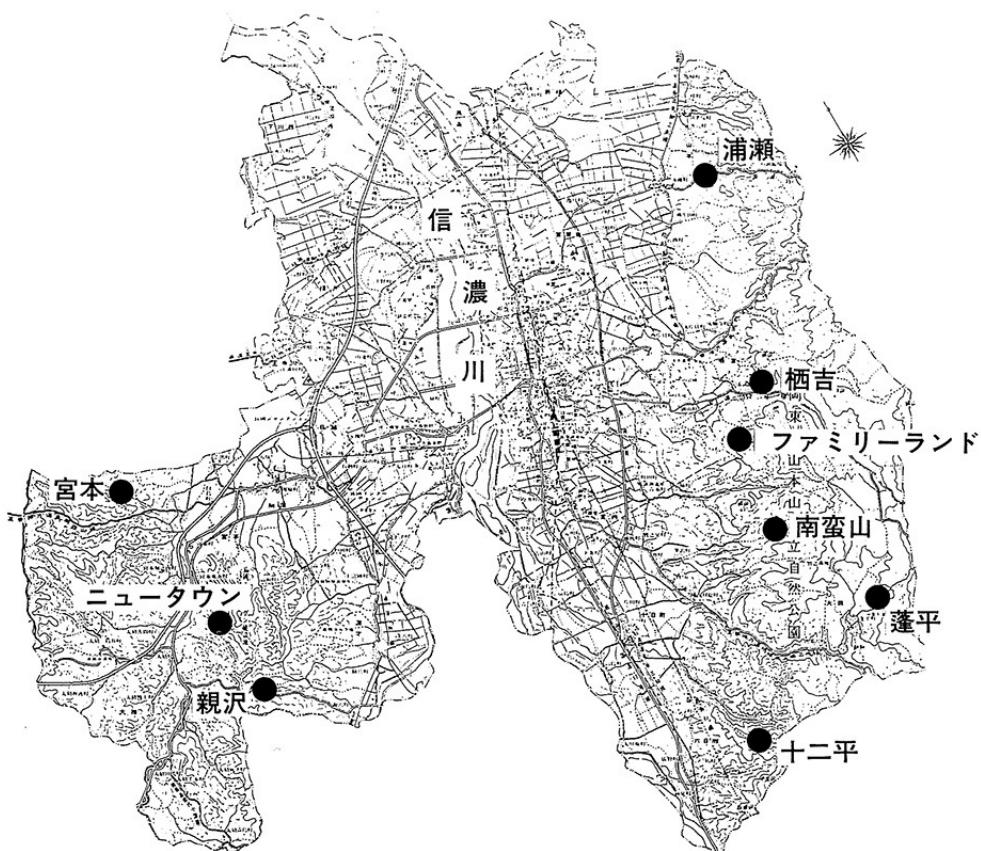


図1 野鳥相を調べる会で調査した東山・西山の調査地

〈表紙写真：キジバト〉

調査地と調査方法

調査地は図1に示したように東山地域で6か所、西山地域で3か所である。調査地の植生等については前報でふれたが、東山は標高400~700m級の低山である。主な植生は、コナラ、クリなどからなる二次林で、いずれの調査地にもスギ林を含む。比較的沢が発達することから、急傾斜地が多く、そこにはタニウツギやヤマモミジなどの低木林が優占する。その中で蓬平地域は傾斜地が多く、森林の少ない地形である点で特異であり、また、十二平地域には養鯉池が多く存在すること、さらに東山ファミリーランドにはスキー場と牧場が隣接するなどの特徴がある。

一方、西山は標高100~200mのなだらかな丘陵で、沢はあまり発達しない。コナラなどを主体にした二次林が優占する点は東山と同様であるが、西山ニュータウンのようにアカマツが多いのは西山の特徴である。宮本、親沢の調査地にはいずれも山間に水田を含み、親沢では堤も1か所存在する。

各調査地の調査年月日は表1に示した。調査は4~11月まで毎月1回とし、一般市民の参加も得て行った。調査時間は、4月並びに9月~11月は午前8時から、5月~8月は午前5時から開始し、概ね片道1時間30分から2時間かけて探鳥した。調査方法は探鳥コースに出現した鳥の種類、個体数をすべて記録する線センサス法に準じて行った。

表1 東山・西山の調査年並びに調査地域と調査コース

区分	調査年	調査地	調査コース
東山地域	1980	栖吉地区	栖吉集落~不動滝
	1981	浦瀬地区	浦瀬集落~351号線~高津谷周辺
	1984	蓬平地区	蓬平温泉~奥の院~高龍神社
	1990	南蛮山	釜沢~石彫の道~桜並木
	1991	六日市十二平	六日市集落~十二平
	1992	東山ファミリーランド	市営スキー場~野鳥の森~ブナ平
西山地域	1982	宮本地区	長岡・西山線~林道~薬師峠周辺
	1983	親沢地区	親沢~柏崎・高浜・堀之内線~峠
	1989	西山ニュータウン	西山ニュータウン~展望台~小倉峠



図2 東山ファミリーランドの野鳥相を調べる会

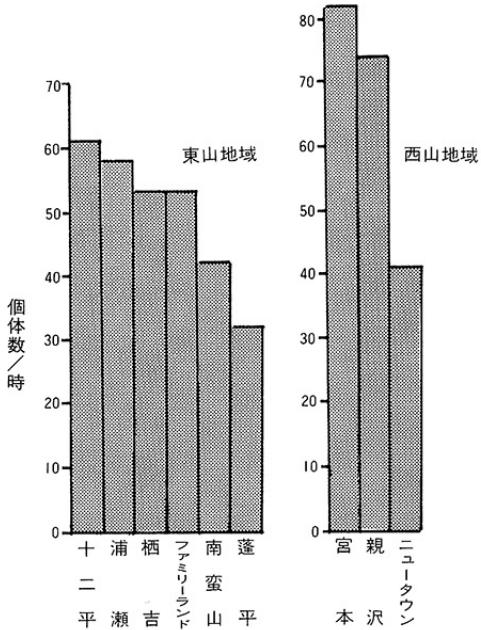
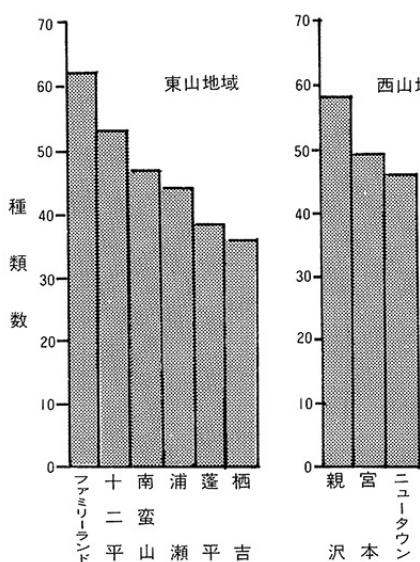


図3 調査地域の総出現種類数

図4 調査地域の総出現個体数／時

種類	調査地域									調査時期						
	東山地域					西山地域				春移動期	繁殖期	繁殖終期	秋移動期			
	栖吉	浦瀬	蓬平	南蛮山	十二平	フアミリーランド	宮本	親沢	ニュータウン				4	5	6	7
46. ジョウビタキ	○				○	○	○									
47. クロツグミ		○	○	○		○	○	○	○							
48. アカハラ	○					○	○									
49. ツグミ	○	○	○	○		○	○	○	○							
50. ヤブサメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
51. ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
52. コヨシキリ					○											
53. オオヨシキリ					○											
54. メボソムシクイ	○					○	○									
55. エゾムシクイ					○											
56. センダイムシクイ	○			○	○	○	○	○	○							
57. キクイタダキ				○						○						
58. キビタキ	○	○	○			○		○	○							
59. オオルリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
60. サメビタキ					○											
61. エゾビタキ					○											
62. コサメビタキ					○			○								
63. サンコウチョウ	○			○	○		○	○								
64. エナガ	○	○		○	○	○	○	○	○							
65. コガラ					○	○										
66. ヒガラ				○		○		○	○							
67. ヤマガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
68. シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
69. メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
70. ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
71. カシラダカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
72. ミヤマホオジロ					○			○								
73. ノジコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
74. アオジ	○	○		○		○	○	○	○							
75. カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
76. マヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
77. ベニマシコ							○	○								
78. ウソ	○			○		○				○						
79. イカル		○		○	○	○	○	○	○							
80. シメ							○	○								
81. ニュウナイズズメ				○	○	○		○	○							
82. スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
83. コムクドリ		○				○										
84. ムクドリ			○		○	○	○	○	○							
85. カケス	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
86. オナガ										○						
87. ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
88. ハシブトガラス		○	○	○	○	○	○	○	○							
合計	36	44	38	47	53	62	49	58	46	59	56	47	44	40	38	41

※ ○ 出現地域 ■ 出現時期

観察種類と出現状況

これまで東山と西山の「野鳥相を調べる会」で記録された鳥類は、合計13目30科88種になる(表2)。この種類数は1987年に報告した時よりも17種増えている。その種類は、オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、キジ、コチドリ、コルリ、コヨシキリ、オオヨシキリ、エゾムシクイ、キクイタダキ、サメビタキ、エゾビタキ、コサメビタキ、コガラ、ミヤマホオジロ、コムクドリ、オナガである。これらのうち、東山で繁殖していると思われるものは、ファミリーランドに出現したコサメビタキだけで、その他は渡りの途中に立ち寄ったものや、コムクドリ、オナガのように近くの集落などで繁殖しているものがたまたま飛来したと思われる種類である。オオタカは1990年の南蛮山の調査で出現し、注目されたが本地域における繁殖はその後の調査でも確認されなかった。

東山と西山の種類数をみると、東山地域では81種、西山地域では70種である。この種数の違いは調査地域数によると思われるもので、特に東山だけに限って生息しているような種類はない。ただ、カワガラスやアカショウビンなどは渓流性の鳥だけに沢の発達している東山の方に多いであろう。また、イヌワシはたまたま飛来したものであろうが、1981年5月17日に浦瀬で観察されている。本種は東山の後方にそびえる守門岳で繁殖していることからみても、西山よりは東山に出現の可能性が高いはずである。

次に、各調査地の出現種類数と個体数密度を比較すると(図3・4)、最も種類数が多かったのは東山ファミリーランドの62種で、親沢(西山地域)の58種がそれに続く。一方少なかったのは東山の栖吉の36種、蓬平の38種である。個体数密度は、東山では十二平の61.3羽/時が、また西山では宮本の82.4羽/時が最も高い。

分 布

各種の分布をみると、東山、西山の9調査地すべてに出現した種類は次の22種になる。トビ、サシバ、キジバト、ホトトギス、コゲラ、ツバメ、サンショウクイ、ヒヨドリ、モズ、ヤブサメ、ウグイス、オオルリ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、ノジコ、カワラヒワ、スズメ、カケス、ハシボソガラス。これらの種類は東山、西山問わず広く分布し、しかも、冬鳥のカシラダカを除けばいずれもこれらの地域で繁殖している鳥である。一方、1か所にしか出現しなかったカツブリ、キンクロハジロ、イヌワシ、ハヤブサ、キジ、コチドリ、イカルチドリ、アカショウビン、ピンズイ、コルリ、コヨシキリ、オオヨシキリ、エゾムシクイ、サメビタキ、エゾビタキ、オナガなどは、これら本来の生

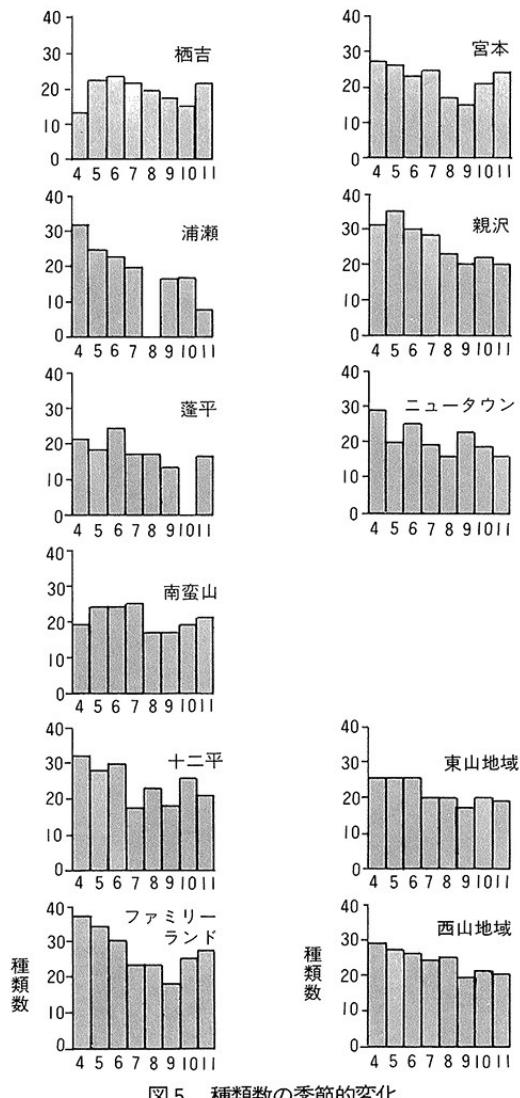


図5 種類数の季節的変化



図6 シジュウカラ

息環境が東山、西山に少ないとや、渡りの時に偶然に飛来した種類であろう。

季節的变化

種類数：観察種類数は各調査地とも春期（4～6月）に多い（図5）。特に、ファミリーランドや親沢のように全体に観察種類が多い地域では、この春期に30種を越す鳥類が観察されている。そして、夏期（7～9月）にやや少なくなり、秋期（10～11月）に再び多くなるという変化が一般的で、東山の南蛮山、十二平、ファミリーランド、西山の宮本などはその典型である。このような季節的变化は、春期と秋期は渡りの季節をむかえ、特に出現種類が多くなるためと思われる。例えばファミリーランドでは春の渡りの時期である4月の調べる会の時には、ここを通過して行くアカハラ、コヨシキリ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、サメビタキ、アオジ、などが観察されたほか、まだ渡り前のカシラダカ、ウソ、ツグミなどの冬鳥が観察されたし、そこに、オオルリ、サンバなどの夏鳥がもう渡って来ており、これらすべて合わせて観察種類は37種と多かった。

個体数：次ぎに個体数の季節的变化を見てみよう（図7）。各調査地の個体数／時の変動には、大きく2つの変化がみられる。栖吉のように春期から秋期まであまり変動なく推移する例は珍しく、例えば、浦瀬のように春期に少なく、秋期に高くなる「春低秋高型」と、蓬平のように春期に高く、夏期に低くなり、秋期にまた高くなる「春高秋高型」である。東山の南蛮山、十二平、ファミリーランドなどは、いずれも「春低秋高型」である。

9月、10月に個体数密度が高くなるのは、ヒヨドリが渡りの時期を迎え、大きな群れが幾つも出現することによる。また11月に密度が高いのは、マヒワ、エナガ、シジュウカラ、カシラダカ、カラスなどの冬鳥や、一部の留鳥がやはり群れで出現することによる。

一方、西山地域では「春高秋高型」である。秋期に高くなるのは、水田や湿地に出現するカシラダカ、アオジなどのホオジロ類が多いことのほかは、東山地域とほぼ同様の理由によるが、春期に密度が高いのは、ヒヨドリの個体数が非常に多かったことによる。西山の調査地域は、東山に比較して、標高が低く、かつ林縁が開けた明るい林が多かったことから、このような環境を好むヒヨドリの密度が特に高かったのかもしれない。また、春と秋の渡りの時期には、東山よりも西山の方に鳥の密度は高い傾向がみられた。

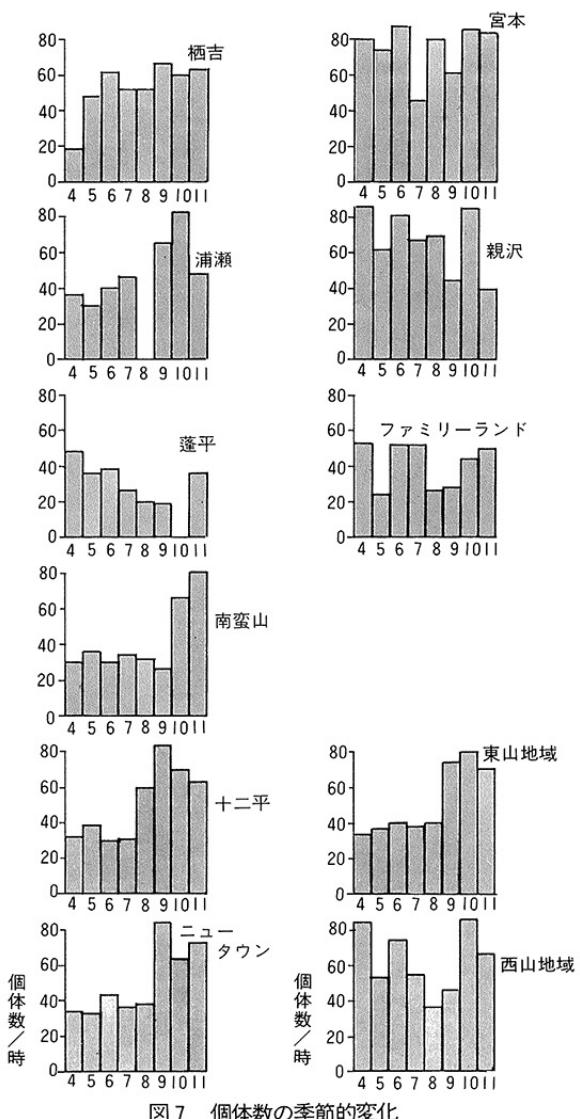


図7 個体数の季節的变化



図8 ヤマガラ

主な種の季節的消長

東山、西山に出現した鳥類のうち、留鳥、夏鳥、冬鳥と目される主な種類の季節的变化をみた(図9)。

ホオジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、キジバト、カケスなどの留鳥はいずれも4~11月まで出現するが、その消長は各種でやや違っている。ホオジロはほぼ平均して出現するものの、シジュウカラやヤマガラは、秋期に多くなり、カケスも10月から目立つようになる。

ヒヨドリ、ウグイス、メジロなどは、冬期にはほとん

どが移動する漂鳥的な鳥であるが、これらは11月に入ると急に数が少なくなる。しかし、カワラヒワは9月、10月には少なくなるが、11月に入って再び数を増す。これは9~10月ころには河原などに雑草の種子が実ることから、それらを求めて一時的に移動し、11月に再び帰って来るのではないだろうか。

オオルリ、サシバ、ノジコなどの夏鳥は、4月に入るとすでに渡ってきており、10月になるとその姿が見ら

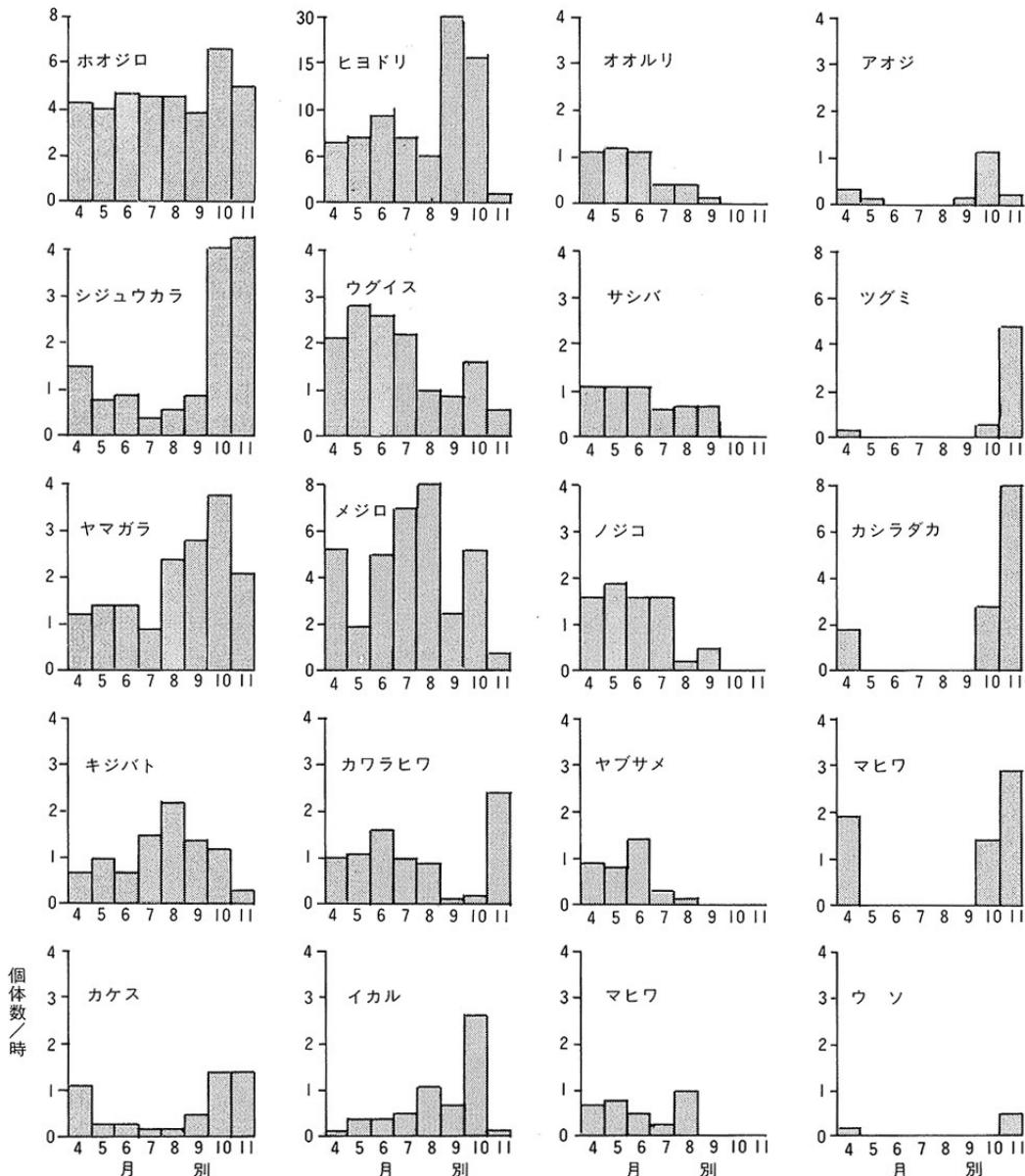


図9 主な鳥類の季節的消長

れなくなる。アオジは東山、西山地域では春と秋の渡りの時期にのみ出現し、繁殖期には生息しない。

ツグミ、カシラダカ、マヒワ、ウソなどはいずれも冬鳥で、10月に姿を現し、11月にピークを示し、翌春の4月まで留まるが、5月にはほとんど姿を消すことがわかる。

繁殖期の優占種

繁殖期の出現種類数や個体数などは、その環境をある程度反映する。東山と西山の繁殖期（5～7月）の出

現種数は、東山では51種、西山では49種でほとんど差がない。また、繁殖期の各調査地の出現種のうち、個体数の多いものの（優占種）から順に上位5種を並べると図10のようになる。これをみても、南蛮山の他はすべてヒヨドリが最優占種で、それに続いてホオジロ、メジロ、ウグイスが優占するところが多い。つまり、上位5種のうち、ヒヨドリ、ホオジロ、メジロ、ウグイスの4種は東山、西山共通の優占種である。両地域の繁殖期の生息種類とその優占種の構成にはあまり違いは認められない。

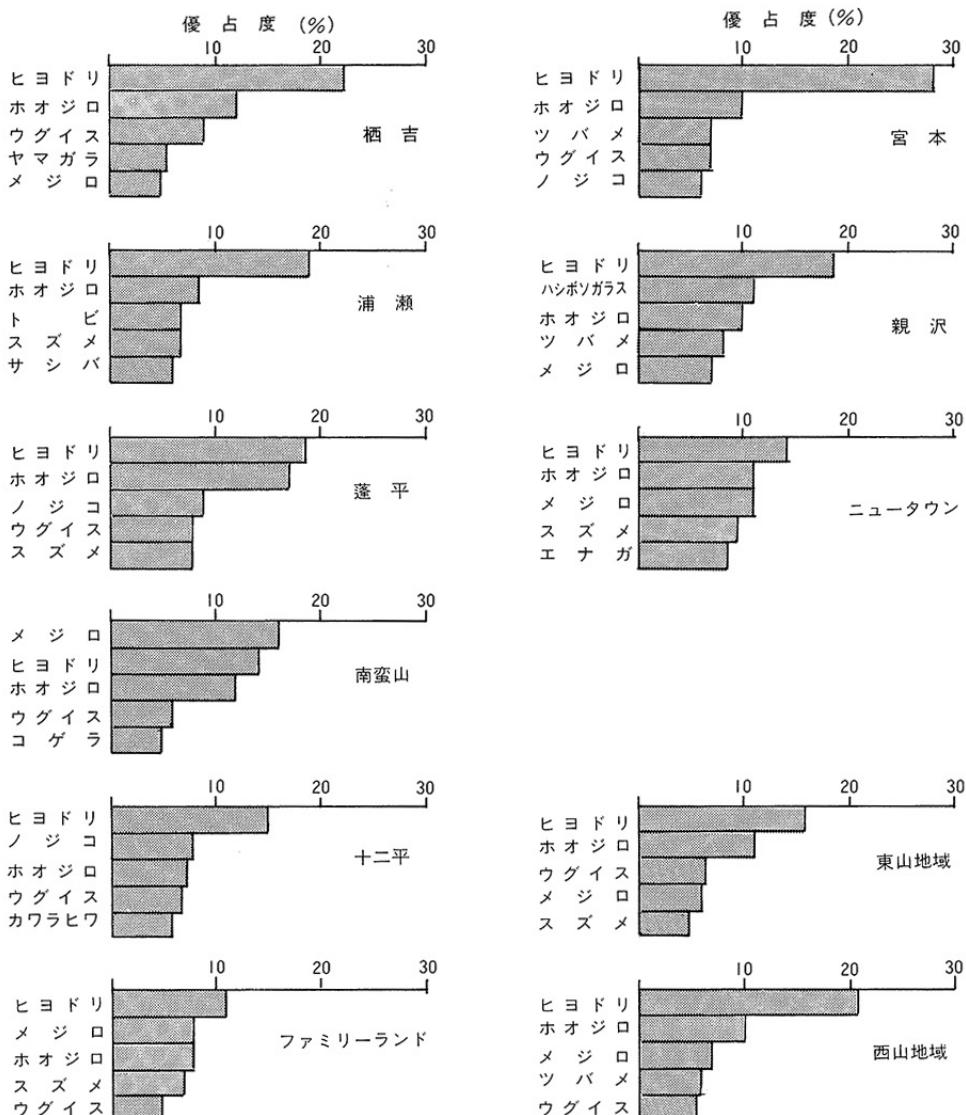


図10 東山・西山地域の繁殖期の優占種

平成4年度事業報告

資料調査・収集

〔地学研究室〕

- 研究協議 新潟市：4月
- 試料調査 新潟市：3月
- 地質研究 東京都：3月（2回）

〔植物研究室〕

- 濡原調査 十日町市：8月
- 植物分布調査 南魚沼郡湯沢町：7月、8月
- 研究協議 新潟市：1月（3回）

〔昆虫研究室〕

- 昆虫分布調査 糸魚川市：4月、3月
中頸城郡妙高高原町：5月
南魚沼郡湯沢町：6月（2回）、7月
両津市：7月
粟島浦村：3月

〔動物研究室〕

- 鳥類分布調査 加茂市：4月、6月（2回）、9月
糸魚川市：2月
村上市：3月

学会・研修会・協議会

- 平成4年度新潟県博物館協議会総会 4月22日、新潟市
(参加：西山館長)
- 第34回北信越博物館協議会総会及び研究協議会 6月
11・12日、福井市（参加：渡辺館長補佐）
- 平成4年度新潟県博物館協議会運営研究会 6月24・
25日、三島郡和島村（参加：渡辺館長補佐、安藤主
事）
- 平成4年度新潟県博物館協議会学芸員等職員研修会
9月16・17日、山形市（参加：西山館長、山岸係長）
- 日本鞠目学会大会 11月22日、東京都（参加：山屋
主任）
- 全国遺跡環境整備会議 11月26・27日、京都府加悦町
(参加：駒形副主幹)
- 埋蔵文化財専門職員研修会 2月17・18日、新潟市
(駒形副主幹)
- 自然保護講座 2月27・28日、東京都（参加：西山館
長）
- 新潟県博物館協議会役員会 3月25日、新潟市（参加
：西山館長）

普及活動

- 地層と化石の観察会
6月14日、滝谷町、参加者34人。

◦ 河原の石の観察会

7月19日、才津町（渋海川）、講師：新潟大学大学院生
本多孝安先生、参加者14人。

◦ 地層観察ハイキング

10月11日、蓬平—南蛮山—鷺巣コース、参加者5人。

◦ 早春の植物を観察する会

4月29日、栖吉町風谷山周辺、参加者23人。

◦ 親子の夏の植物観察会

7月28日、鷺巣町定正院、参加者14人。

◦ 信濃川の植物観察会

9月12日、信濃川の川辺、参加者21人。

◦ キノコをしらべる会

10月4日、国営越後丘陵公園建設地、講師：新潟県生
物教育研究会会員 伊藤尚威先生、参加者39人。

◦ キノコの展示会

10月5・6日、科学博物館展示室、講師：長岡キノコ
同好会事務局長 原信高先生。

◦ 雪国植物の越冬をしらべる会

11月29日、百間堤周辺、参加者13人。3月28日、百間
堤周辺、参加者18人。

◦ 夏の昆虫観察会

7月19日、桂町周辺、講師：昆虫研究家 須藤弘之先
生、参加者34人。

◦ 国営公園親子昆虫標本づくり教室

8月9・10日、国営越後丘陵公園建設地、参加者31人。

◦ 昆虫おもしろ教室

9月12日、中央公民館大ホール、講師：月刊むし編集
長 藤田宏先生、参加者211人。

◦ 野鳥相をしらべる会

調査地：東山ファミリーランド周辺

4月26日、参加者36人。5月24日、参加者17人。6月
28日、参加者29人。7月19日、参加者20人。8月23日、
参加者22人。9月27日、参加者18人。10月11日、参加
者21人。11月22日、参加者18人。

◦ 信濃川バードウォッチング

5月10日、信濃川左岸（長生橋～長岡大橋）、参加者29
人。

◦ 野鳥集会と探鳥会

5月16・17日、八方台休暇センター及びその周辺、講
師：塩沢小学校校長 井口忠先生、参加者34人。

◦ 悠久山探鳥会

11月15日、悠久山～百間堤、参加者32人。

◦ 冬鳥さよなら探鳥会

3月14日、信濃川（長生橋上流）、講師：長岡野鳥の会
評議員 古川英夫先生、参加者27人。

・縄文土器をつくる会

5月16・17日（造形）・6月7日（野焼き）、深才連絡所及び藤橋歴史の広場、講師：陶芸作家 今 千春先生、参加者46人。

・縄文時代の石器をつくる会

7月5日、藤橋歴史の広場、参加者12人。

・第41回生物標本展示会・第34回自然科学写真展示会

10月21日～10月24日、会場：厚生会館中ホール、出品者数延246人、出品点数6,574点、入場者数延709人。

・第29回県内小・中・高校生生物研究発表会

10月25日、会場：厚生会館第1小ホール、発表：小学生の部9題、中学生の部1題、高校生の部4題、入場者数延96人。

・科学博物館講演会

11月14日、会場：中央公民館401教室、演題：白鳥の世界と人間、講師：日本白鳥の会副会長 本田清先生、動物研究室の報告：信濃川の渡り鳥について、当館副主幹 渡辺央、入場者68人。

・植物標本の名前をしらべる会

8月28日、中央公民館401教室、参加者30人。

・昆虫標本の名前をしらべる会

8月28日、中央公民館302教室、参加者12人。

青少年科学活動促進事業

地域の教育力を活用し、青少年の科学する心を育むことを目的に実施した。

・少年少女青空科学教室

5つの教室を開設し、対象は小学5・6年生とした。

教室名	人数	期間	回数
地学教室	16人	5月～10月	8回
緑の科学教室	15人	5月～10月	8回
昆虫科学教室	11人	5月～11月	8回
野鳥科学教室	10人	5月～10月	10回
縄文教室	17人	5月～11月	9回

・少年少女科学フェスティバル

11月8日、中央公民館大ホール、参加者72人。

学習成果の発表、作品展示、閉講式。

総合博物館建設のための事業

・長岡市立総合博物館（仮称）展示委員会の設置

・顧問（敬称略）

氏名	職名
杉山二郎	佛教大学教授

・委員（敬称略）

	氏名	職名
地学	納口 恭明	長岡雪水防災実験研究所 主任研究官
	小林 巍雄	新潟大学理学部教授
植物	石澤 進	新潟大学理学部助教授
	小島 誠	新潟大学農学部教授
昆蟲	○樋熊 清治	新潟県自然環境保全審議会委員
	遠山富士雄	栃尾市立刈谷田中学校教頭
動物	村山 均	にいがた貝友会会长
	金安 健一	出雲崎町立出雲崎中学校教諭
考古	小野 昭	新潟大学人文学部教授
	中島 栄一	新潟市立明鏡高等学校教頭
歴史	金子 達	県立新潟西高等学校教諭
	土田 隆夫	県立与板高等学校校長
	稻川 明雄	長岡市市史編さん室室長補佐
	○吉沢 俊夫	長岡郷土史研究会会长
民俗	駒形 駿	新潟県文化財保護審議会委員
	高橋 由雄	県立長岡農業高等学校教諭

◎委員長、○副委員長

・委員会の開催

2月9日全体会 中央公民館401教室

・資料調査・収集

地学部門 群馬県利根郡水上町：1月

長岡市浦瀬町：3月

植物部門 上越市：1月

昆虫部門 両津市：3月（2回）

動物部門 中頸城郡妙高高原町：9月、10月

両津市：11月

・先進博物館視察

7月24日 茨城県立歴史館、水戸市立博物館

7月29日 埼玉県立博物館、大宮市立博物館

1月27日 千葉県立中央博物館、国立科学博物館

1月28日 国立科学博物館附属自然教育園、横須賀市自然博物館・横須賀市人文博物館

出版物

・館報（N K H）

・62号 生物研究発表会特集 700部

・63号 特集：長岡東山・西山の鳥類相(続) 700部

・博物館研究報告 第28号

500部

・浦瀬川流域の古地磁気(2) 加藤正明

・信濃川の河辺植物(13) 西山邦夫・荒井キミ

- ・新潟県の水草(III) 割屋 寿・伊藤 至
- ・新潟県のジュウカイポン(1) 今坂正一・山屋茂人
- ・コブヤハズカミキリ属の研究(1)
山屋茂人・島田久隆
- ・コガネムシ5種の新種記載 三宅義一・山屋茂人
- ・カイツブリの繁殖生態 渡辺 央
- ・新潟県の旧石器・繩文草創期 小熊博史・立木宏明
- ・博物館資料シリーズNo.3 ワシタカ類収蔵標本
1,000部

主な資料寄贈（敬称略）

・地学資料

- 玉髓 1点 長岡市草生津1 大川三郎
 高師小僧 1点 新潟市五十嵐2 和泉 薫
 底生有孔虫化石30種60点 新潟市万代5 野村正弘

・動物資料

- ホンドギツネ 1点 三島郡越路町 大野哲夫

・歴史資料

- 旧前野神社の轍 1点 長岡市雨池町 長部三郎

・民俗資料

- 蚊帳、大風呂敷 2点 長岡市日赤町1 石塚慎吾
 色紙短冊等貼交屏風ほか38点
新潟市小針6 川上哲史

学芸員名簿（平成5年4月1日）

- 館長 西山邦夫 (植物)
 副主幹 渡辺央 (動物)
 主任 山屋茂人 (昆虫)
 学芸員 加藤正明 (地学)
 学芸員 小熊博史 (考古) 新任
 学芸員補 山崎進 (民俗) 新採用
 学芸員補 広井造 (歴史) 新採用

(平成5年3月31日付転出)

副主幹 駒形敏朗 (考古) 社会教育課へ

あとがき

自分たちの住んでいる地域の自然を自分たちの手で調べ、記録を残していくことは、地域の自然を知るという面からも、また自然保護を考える上からも重要なことだと思います。そのような意味から、16年間にわたって続けているこの「野鳥相を調べる会」の記録は私たちの大きな財産であると思います。

今後は市街地の野鳥相なども調べて行きたいと思っています。（渡辺）

平成4年度月別入館者数

月別	個人		団体			資料照会		計	
	大人	子供	団体数	大人	団体数	子供	大人	子供	
4. 4	321	137	2	74	10	810	42	1	1,385
5	437	135	—	—	20	1,450	29	—	2,051
6	278	92	2	51	2	198	33	5	652
7	445	131	2	47	3	130	39	26	797
8	1,010	495	5	106	—	—	87	4	1,724
9	180	64	1	47	3	310	74	—	679
10	464	121	5	99	3	106	92	—	882
11	297	127	2	38	1	21	62	—	545
12	169	78	1	12	—	—	29	—	288
5. 1	175	70	—	—	1	12	40	—	297
2	264	57	1	12	—	—	32	—	365
3	289	101	—	—	—	—	36	—	426
合計	4,329	1,608	21	486	43	3,037	595	36	10,091

N K H (長岡市立科学博物館報) No.63

平成5年3月31日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館

〒940 長岡市柳原町2-1

印刷所 梅北越時報社

長岡市住吉2-5-13